

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1472602711
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい
訪問調査日	平成23年1月18日
評価確定日	平成23年2月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602711	事業の開始年月日	平成17年2月1日	
		指定年月日	平成17年2月1日	
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社			
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホーム あじさい			
所在地	(252-0203) 神奈川県相模原市中央区東淵野辺1-22-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月11日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、アセスメントにセンター方式を取り入れて、職員一同がご利用様の心身状態を細かく把握出来るように取り組んでいます。
社内研修やかながわ福祉サービス振興会主催の研修などに職員を積極的に参加を促し、職員のスキルアップに力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年1月18日	評価機関 評価決定日	平成23年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①このホームは三菱電機ライフサービス株式会社の経営である。三菱電機ライフサービス(株)は三菱電機のソフトの部分の部分を扱う会社で主に6つの事業分野(総合不動産事業、介護サービス事業、フードサービス事業、物販サービス事業、ビジネスサポート事業、リゾートサービス事業)を全国に展開し、介護サービス事業ではデイサービス、居宅介護、訪問介護、福祉用具、グループホームなどを会社の支店所在地中心に展開し、更に拡大を図って行く予定である。ロケーションはJR古淵駅から徒歩14~5分、相模原市の北部にある。付近はまだ畑の多い地域で雑木林も散在し、田園の面影が残る新興住宅地である。
 ②地域との関係では自治会に加入し、自治会行事に積極的に参加している。近所の小学校と交流があり、運動会や音楽発表会に参加したり、小学校の生徒が来所されて七夕の飾り付けを一緒に行ったり、小学校の町探検の協力を行なう等、良い関係が維持されている。小学校の町探検では毎年小学校の先生、小学校2年生その父母が来所し、グループホームについての質疑応答が行われている。
 ③三菱電機ライフサービス(株)では、全国に展開するグループホームでセンター方式を導入しおり、東京センターの協力を得て、年数回の研修を実施し、認知症専門の施設として全職員が認知症に対する知識の習得に努めている。センター方式は本人を中心(センター)に置いて考える手法であり、利用者のみならず介護する職員の側にも大きなサポートとなる。つまり、利用者がある行動をするには原因があり、原因を発見することが利用者及び介護する職員双方に役立つと考えて取り組んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	相模原ハートケアガーデン グループホーム あじさい
ユニット名	花びら通り一丁目

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念：①その人らしさ・地域とのふれあい・ご家族との連携を大切にします。②親切・丁寧・思いやりの心で、笑顔の絶えない明るいホームを目指します。③安心・安全・遵法に配慮し、快適な環境づくりを心掛けます。定期的に理念を確認し合い、日々共有と実践に努めている。	理念は「その人らしさ・地域とのふれあい・ご家族との連携を大切にします。」「親切・丁寧・思いやりの心で、笑顔の絶えない明るいホームを目指します。」「安心・安全・遵法に配慮し、快適な環境づくりを心掛けます。」であり、地域とのふれあい（地域密着を謳い、ミーティング等で定期的に理念を確認し合い、日々の共有と実践に努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入して地域の夏祭りに参加したり、近隣の小学校での運動会や音楽発表会に参加したり、小学校の生徒が来所されて七夕の飾り付けを一緒に行ったり、小学校の町探検の協力をしたりして、地域との交流を図っている。地域とは良い関係が保っている。	自治会へ加入して地域の夏祭りに参加したり、子ども会費用の捻出のための資源ごみ回収に協力を行なっている。近隣の小学校での運動会や音楽発表会に招かれたり、小学校の生徒が来所されて七夕の飾り付けを一緒に行ったり、小学校の町探検の協力など、地域との交流を図り、地域とは良い関係が保たれている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の町探検では毎年小学校の先生、小学校2年生その父母が来所し、グループホームについての質疑応答が行われている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催して、自治会長や民生委員及び地域包括支援センターの職員、ご利用者本人並びにご家族に参加して頂き、現在のサービス利用状況の報告を行い、サービス向上のために意見を伺っている。	運営推進会議を2ヶ月に1回（奇数月の第3金曜日）開催している。メンバーは自治会長、前自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者本人及びご家族それに支店の部長、ホーム関係者である。テーマは現在の運営状況報告、地域包括支援センターからの情報提供、研修の状況、スプリンクラー工事についての報告などを行い、サービス向上のために意見を伺っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあればいつも市担当者に相談しており良好な関係を保っている。	何かあればいつも市担当者に相談しており良好な関係を保っている。地域包括支援センターとは運営推進会議に参加して頂いたり、地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席したり、独居で1人で生活出来ない人を地域包括支援センターと一緒に入所の支援をしたりと良好な関係を保っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上の理由から、玄関の施錠は行っている。 身体拘束が必要な場合は、ご家族からの同意書にサインを頂き、定期的な見直しを行っている。	玄関の施錠は行っていない。（夜間は、防犯上の理由から施錠している）身体拘束をしないケアを正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。どうしても身体拘束が必要な場合に限り、ご家族からの同意書にサインを頂いて実施する事とし、定期的に見直しをすることになっている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	月に1度のケースカンファレンス時に、ご利用者を中心に見据えたケアのあり方を話し合い、更には管理者やリーダーが日々、利用者の表情に注意を払い、変わりなく穏やかに過ごされていることを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用について考えている方が居るので、必要場合は協力医療機関や包括支援センターなどと協力し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に事前に説明を行い、更には締結まで書類をお渡して、確認頂き不明な点についてはご納得頂けるまで十分な説明を行った上で契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書により苦情処理窓口の周知を行い、運営推進会議への参加時には、様々な発言が出来るように配慮している。ご家族やご利用者に対して順番にご意見を伺う時間を設け、苦情や要望を吸い上げるよう心掛けている。更には、普段からご家族とは綿密に意見交換し、何でも言いやすい環境とお互いの信頼関係構築に努めている。	利用者やご家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会として、苦情処理窓口を設け、周知を図っている。また、利用者、ご家族に意見を伺う時間を設け、苦情や要望の抽出に努めている。また、常日頃、ご家族と密に意見交換し、何でも言いやすい環境作りと相互信頼関係の構築に努めている。運営推進会議への参加時には、様々な発言が出来るように配慮し、意見を運営に反映するよう努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から風通しの良い職場作りを心掛けており、スタッフの意見や提案を受け入れている。スタッフミーティングなどでも活発な意見交換が行われている。	日頃から風通しの良い職場作りを心掛け、スタッフミーティング等で活発な意見交換を図り、意見や提案を受け入れている。事業部で作ったスキルマップ（項目に沿った4段階）を本人と上司で自己評価を行い、自己申告書と組み合わせる面接を行い、公平な査定を心がけている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や労務管理は常に課長が把握し、不公平のない働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	やりがいのある職場となるように会社独自の社内研修やかながわ福祉サービス振興会等の外部研修にも会社負担にて研修の機会を設けている。年度始めには自己申告書・面接により、個々の年間目標を設定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市内のグループホームの管理者が10名程集まり、様々な意見交換を行い、今後も定期的集まることになった。スタッフも研修で知り合ったグループホームのスタッフとお互いのホームの実習や見学をしようと言うことでネットワークも広がっている。これらのことがグループホーム全体の向上につながると思われ、大いに奨励、応援している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じて、ご本人の希望や要望等を聞く機会を設けている。更に入居後はホームに早くなじめるよう、スタッフからの声かけやご本人の希望に耳を傾けることに気を配り、安心して生活して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じて、ご家族の要望等をよく聞いて機会を設けている。更には、いつでもホームにお越し頂ける旨と気がついたことは何なりと言って頂きたい旨をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接等の相談時において、ご本人及びご家族との話を聞いた上で、適切なサービスが選択出来るように、必要な場合は、他のサービスについての情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者から話しかけられた時は、スタッフが他の仕事をしていても手を止めて時間を取り、ご本人の思いを汲み取れるようにしている。また、認知症のアセスメントであるセンター方式(ご利用者を中心に考える)を通して、ご利用者の昔の生活を知ること、本人の思いを感じ取れるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族がゆっくりと話が出るように、ご利用者の居室等で一緒に過ごせるようにしている。また、スタッフが普段の様子を説明して、情報を共有できるように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣にお住まいで頻繁に面会に来られるご利用者のご友人もいるが、面会やご家族との外出は、自由にして頂いている。	近隣にお住まいで頻繁に面会に来られるご利用者のご友人もいるが、面会やご家族との外出は、自由にして頂いて支援している。ある利用者のご友人が犬を連れて遊びに来てくれたりしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が会話をしやすいように食席についても配慮している。レクリエーションや行事等を通じて、時々ユニット間でも交流が図れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者に対しても、本人又は家族から相談があった場合は、必要な情報提供や相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症アセスメントのセンター方式を採用し、ご本人やご家族からの思いや意向の把握に努めている。	三菱電機ライフサービス(株)では、全国に展開するグループホームでセンター方式を導入している。東京センターの協力を得て、研修を展開し、ご本人やご家族からの思いや意向の把握に努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症アセスメントのセンター方式において、ご本人の生活歴や馴染みの暮らし方等の把握を行っている。 これまでのサービスの利用については、初回面接や必要に応じて、ご本人及びご家族から確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	すべての職員が日々の様子を観察して、ケース記録に一人ひとりの1日の過ごし方について、記録する。センター方式の24時間生活変化シートを記録することによって、現在と以前の1日の過ごし方の違いや心身状態の変化の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者一人ひとりに対して、6ヶ月に1回以上カンファレンスを開催して、介護計画書の見直しを行っている。モニタリングを2ヶ月に1回行い、ご本人やご家族の意向を加味して介護計画書の見直し等を行っている。	センター方式により、本人が何をやりたいか、長い1日、自分から言い出せない人に何をやって頂けるかを考えて24時間シートに本人の言葉で書き、スタッフの気付きも書きこんでいる。利用者一人ひとりに対して、6ヶ月に1回以上カンファレンスを開催し、ご本人やご家族の意向を加味して介護計画書の見直し等を行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や連絡帳を活用して、職員間での情報の共有化を図り、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他支店での福祉用具貸与を行っている事業所から特殊寝台等のレンタルを行ったり、要望に応じて通院のサポートをしたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のお祭りに参加したり、小学校への運動会や音楽会等の行事に参加して、ご利用者に喜んで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の在宅訪問診療、2週間に1回で全員診察を受けている。他のかかりつけ医がいる場合には、医師同士の連携が図れるよう配慮し、適切な医療が受けられるように援助を行っている。	内科の在宅訪問診療（つくしの駅前クリニック）を導入しており、2週間に1回で全員診察を受けている。他のかかりつけ医がいる場合には、医師同士の連携が図れるよう配慮し、適切な医療が受けられるように援助している。看護師は訪問看護ステーションと契約し、毎週1回来て頂いており、つくしの駅前クリニックの先生とも連携を取って頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、週1回訪問看護師の訪問を受けて、全員の様子のチェックを受けると共に日常の関わりの中で気付いた事などの相談を行い、アドバイスを受けたり、必要に応じて、かかりつけ医と連携をとってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、介護サマリーを提供し、医師から家族への説明時に立ち会うなどと病院側との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの現状における体制について、ご本人及びご家族等と話し合いを行い、在宅診療所や訪問看護事業所、家族の力を借りて、できる範囲で最善が尽くせるよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームの現状における体制について理解を頂き、本人及びご家族等と職員で話し合いを行い、在宅診療所や訪問看護事業所、家族の力を借りて、ホームの出来る範囲内で最善が尽くせるよう支援に取り組んでいる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法などの救急方法についての研修を行っている。事故発生時の救急対応方法についてもマニュアルにより、職員全員が理解している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を行っている。災害時には、近隣の職員への連絡が取れるような体制をとっている。	年に2回、消防訓練を行っている。災害時には、近隣の職員へ連絡が取れるような体制を整えている。ご近所の協力と云う面では非常時に10分程度で来られるスタッフが10名程度いるのでそれをメインに考えている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや話し方は、基本的に敬語としている。相手の人格等を尊重するようにマナー研修も行っている。認知症であるご利用者の状況に応じて、親しみを込めた対応を心掛けている。	こちらのホームは、ご利用者への声かけや言葉遣いは、基本的に敬語としている。一人ひとりの人格等を尊重するように努め、職員はマナー研修も行い研鑽している。また、個々の状況に応じ、親しみを込めた対応を心掛けている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意見を尊重するように心掛けている。要望を叶えることが難しい場合には、本人が納得いくまで十分に話し合うよう心掛けている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課は基本的には、決まっているが認知症であるご利用者の状況に応じて本人のペースを尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時などに髪をとかしたり、男性の髭剃りを行ったりしている。また、月に1回訪問理美容を利用し、日々の身だしなみやおしゃれに気を配っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるように一人ひとりの好みを把握し、嫌いな物の場合でもなるべく食べて頂けるよう調理を工夫している。調理や食器拭きができる方には、手伝って頂いている。また、季節毎の行事やしきたりに応じた食事の提供を心掛け、習慣を忘れず楽しんで食事をして頂けるように心掛けている。	三菱電機ライフサービス(株)はフードサービス事業を行っており、その関係で定期的に安全衛生巡視を実施し、食の安全に努めている。又、食事を楽しんで頂けるように一人ひとりの好みを把握し、嫌いな物の場合でもなるべく食べて頂けるよう調理を工夫している。調理や食器拭きができる方には、職員と一緒に手伝って頂いている。食事は、季節毎の行事やしきたりに応じた食材の提供に努め、習慣を取り入れ、楽しんで食事をして頂けるように心掛けている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については、毎食時に確認している。水分量についても、注意が必要な方においては、水分量をチェックし、必要量の摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯を外して口腔ケアを行っている。本人ができない場合には、状況に応じてスタッフが介助している。夜間は、入れ歯を外し、週3日はポリデントによる消毒をしている。必要な方は訪問歯科を利用して2週間に一度、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導することで失禁の軽減を図っている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導することで失禁の軽減を図っている。半分以上の利用者が自立でトイレに行っている。便秘については十分に注意し、必要に応じて飲み薬を処方してもらっている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを考慮の上、食物繊維や牛乳の摂取に気を配り、適度な運動も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2日の入浴を提供している。曜日や時間は、本人の希望に合わせるよう心がけているが、夜間帯などの入浴は行っていない。	入浴は、週2日の提供としているが、希望があれば一人ひとりの本人の希望に応じるように支援に努めている。しかし、夜間帯などの入浴は人的な面、安全面を考慮して行っていない。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な温湿度を保つように調整している。居室は個室となっており、安眠できるようにプライバシーの確保をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から薬の説明をよく聞くと同時に薬状をよく読み薬の目的や副作用を理解している。服薬時には、本人と一緒に薬の袋に書かれた氏名、日時を確認し、間違いなく服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を知ることに力を入れ、ご本人の昔の趣味などを知ることにより、楽しい生活ができるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の中でできるだけ散歩へ行けるよう心掛けている。また、季節毎にお花見や日帰り旅行を行っている。家族との外出・外泊も自由にして頂いている。	日々、日課の中で出来るだけ散歩へ行けるよう心掛けている。また、季節毎にお花見や日帰り旅行を行っている。家族との外出・外泊は自由にして頂いている。バス旅行は年1回行い、楽しみとしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金はお持ち頂かないことにしている。お金を自己管理できる方の中には、おこずかい程度を管理している方もいる。おこずかいが必要な時にはホームにて立て替えている。ホームの買物時や散歩時などには希望に応じて使っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご家族やご友人に電話をしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中は、音楽を流したり、リビングに温湿度計を設置して、快適な温度と湿度が保てているようにしている。また、月毎の手作りでカレンダーを作ったり、季節の飾り付けを行い、季節感ができるように工夫している。	共用の空間は、利用者にとって不快さや刺激はなく、温湿度の調整により快適な空間を提供し、食事中には、音楽が流れ、心のゆとりの配慮がされている。リビングには、手作りカレンダーや、季節の飾り付けがされ、季節感を醸し、ホームの感性が伺える。手作りでカレンダーは布製で利用者が縫ったものもある。その他、写真、作品を貼り出し家庭的な雰囲気工夫がされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングの席は基本にご利用者それぞれの場所を決めて、いつでも利用して頂けるようにしている。また、リビングのテレビ前にソファを設置したり、和室の掘りごたつに座り、共用部分でもゆっくりと過ごせる場を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自由に使い慣れた物を持ってきて頂いている。	居室には写真・仏壇・家具などの馴染みの、本人の使い慣れた物を持ってきて頂き居心地よく過ごせるように配慮されている。入居後は本人と相談しながら配置を替えたりして、居心地の良いスペースを作るよう工夫している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の部屋などは分かりやすいように大きな文字で掲示している。また、危険箇所がないように定期的に安全巡視を行っている。		

事業所名	相模原ハートケアガーデン グループホーム あじさい
ユニット名	総合

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念：①その人らしさ・地域とのふれあい・ご家族との連携を大切にします。②親切・丁寧・思いやりの心で、笑顔の絶えない明るいホームを目指します。③安心・安全・遵法に配慮し、快適な環境づくりを心掛けます。定期的に理念を確認し合い、日々共有と実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入して地域の夏祭りに参加したり、近隣の小学校での運動会や音楽発表会に参加したり、小学校の生徒が来所されて七夕の飾り付けを一緒に行ったり、小学校の町探検の協力をしたりして、地域との交流を図っている。地域とは良い関係が保っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の町探検では毎年小学校の先生、小学校2年生その父兄が来所し、グループホームについての質疑応答が行われている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催して、自治会長や民生委員及び地域包括支援センターの職員、ご利用者本人並びにご家族に参加して頂き、現在のサービス利用状況の報告を行い、サービス向上のために意見を伺っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあればいつも市担当者に相談しており良好な関係を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上の理由から、玄関の施錠は行っている。 身体拘束が必要な場合は、ご家族からの同意書にサインを頂き、定期的な見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度のケースカンファレンス時に、ご利用者を中心に見据えたケアのあり方を話し合い、更には管理者やリーダーが日々、利用者の表情に注意を払い、変わりなく穏やかに過ごされていることを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用について考えている方が居るので、必要な場合は協力医療機関や包括支援センターなどと協力し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に事前に説明を行い、更には締結まで書類をお渡して、確認頂き不明な点についてはご納得頂けるまで十分な説明を行った上で契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書により苦情処理窓口の周知を行い、運営推進会議への参加時には、様々な発言が出来るように配慮している。ご家族やご利用者に対して順番にご意見を伺う時間を設け、苦情や要望を吸い上げるよう心掛けている。更には、普段からご家族とは綿密に意見交換し、何でも言いやすい環境とお互いの信頼関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から風通しの良い職場作りを心掛けており、スタッフの意見や提案を受け入れている。スタッフミーティングなどでも活発な意見交換が行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や労務管理は常に課長が把握し、不公平のない働きやすい環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	やりがいのある職場となるように会社独自の社内研修やかながわ福祉サービス振興会等の外部研修にも会社負担にて研修の機会を設けている。年度始めには自己申告書・面接により、個々の年間目標を設定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市内のグループホームの管理者が10名程集まり、様々な意見交換を行い、今後も定期的に集まることが決まった。スタッフも研修で知り合ったグループホームのスタッフとお互いのホームの実習や見学をしようと言うことでネットワークも広がっている。これらのことがグループホーム全体の向上につながるとの思いから大いに奨励、応援している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じて、ご本人の希望や要望等を聞く機会を設けている。更に入居後はホームに早くなじめるよう、スタッフからの声かけやご本人の希望に耳を傾けることに気を配り、安心して生活して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じて、ご家族の要望等をよく聞いて機会を設けている。更には、いつでもホームにお越し頂ける旨と気がついたことは何なりと言って頂きたい旨をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接等の相談時において、ご本人及びご家族との話を聞いた上で、適切なサービスが選択出来るように、必要な場合は、他のサービスについての情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者から話しかけられた時は、スタッフが他の仕事をしていても手を止めて時間を取り、ご本人の思いを汲み取れるようにしている。また、認知症のアセスメントであるセンター方式(ご利用者を中心に考える)を通して、ご利用者の昔の生活を知ること、本人の思いを感じ取れるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族がゆっくりと話が出るように、ご利用者の居室等で一緒に過ごせるようにしている。また、スタッフが普段の様子を説明して、情報を共有できるように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣にお住まいで頻繁に面会に来られるご利用者のご友人もいるが、面会やご家族との外出は、自由にして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が会話をしやすいように食席についても配慮している。レクリエーションや行事等を通じて、時々ユニット間でも交流が図れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者に対しても、本人又は家族から相談があった場合は、必要な情報提供や相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症アセスメントのセンター方式を採用し、ご本人やご家族からの思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症アセスメントのセンター方式において、ご本人の生活歴や馴染みの暮らし方等の把握を行っている。 これまでのサービスの利用については、初回面接や必要に応じて、ご本人及びご家族から確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	すべての職員が日々の様子を観察して、ケース記録に一人ひとりの1日の過ごし方について、記録する。センター方式の24時間生活変化シートを記録することによって、現在と以前の1日の過ごし方の違いや心身状態の変化の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者一人ひとりに対して、6ヶ月に1回以上カンファレンスを開催して、介護計画書の見直しを行っている。モニタリングを2ヶ月に1回行い、ご本人やご家族の意向を加味して介護計画書の見直し等を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や連絡帳を活用して、職員間での情報の共有化を図り、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他支店での福祉用具貸与を行っている事業所から特殊寝台等のレンタルを行ったり、要望に応じて通院のサポートをしたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のお祭りに参加したり、小学校への運動会や音楽会等の行事に参加して、ご利用者に喜んで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の在宅訪問診療、2週間に1回で全員診察を受けている。他のかかりつけ医がいる場合には、医師同士の連携が図れるよう配慮し、適切な医療を受けられるように援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、週1回訪問看護師の訪問を受けて、全員の様子のチェックを受けると共に日常の関わりの中で気付いた事などの相談を行い、アドバイスを受けて、必要に応じて、かかりつけ医と連携をとってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、介護サマリーを提供し、医師から家族への説明時に立ち会うなどと病院側との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの現状における体制について、ご本人及びご家族等と話し合いを行い、在宅診療所や訪問看護事業所、家族の力を借りて、できる範囲で最善が尽くせるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法などの救急方法についての研修を行っている。事故発生時の救急対応方法についてもマニュアルにより、職員全員が理解している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を行っている。災害時には、近隣の職員への連絡が取れるような体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや話し方は、基本的に敬語としている。相手の人格等を尊重するようにマナー研修も行っている。認知症であるご利用者の状況に応じて、親しみを込めた対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意見を尊重するように心掛けている。要望を叶えることが難しい場合には、本人が納得いくまで十分に話し合うよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課は基本的には、決まっているが認知症であるご利用者の状況に応じて本人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時などに髪をとかしたり、男性の髭剃りを行ったりしている。また、月に1回訪問理美容を利用し、日々の身だしなみやおしゃれに気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるように一人ひとりの好みを把握し、嫌いな物の場合でもなるべく食べて頂けるよう調理を工夫している。調理や食器拭きができる方には、手伝って頂いている。また、季節毎の行事やしきたりに応じた食事の提供を心掛け、習慣を忘れず楽しんで食事をして頂けるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については、毎食時に確認している。水分量についても、注意が必要な方においては、水分量をチェックし、必要量の摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯を外して口腔ケアを行っている。本人ができない場合には、状況に応じてスタッフが介助している。夜間は、入れ歯を外し、週3日はポリデントによる消毒をしている。必要な方は訪問歯科を利用して2週間に一度、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導することで失禁の軽減を図っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを考慮の上、食物繊維や牛乳の摂取に気を配り、適度な運動も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2日の入浴を提供している。曜日や時間は、本人の希望に合わせるよう心がけているが、夜間帯などの入浴は行っていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な温湿度を保つように調整している。居室は個室となっており、安眠できるようにプライバシーの確保をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から薬の説明をよく聞くと同時に薬状をよく読み薬の目的や副作用を理解している。服薬時には、本人と一緒に薬の袋に書かれた氏名、日時を確認し、間違いなく服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を知ることに力を入れ、ご本人の昔の趣味などを知ることにより、楽しい生活ができるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の中でできるだけ散歩へ行けるよう心掛けている。また、季節毎にお花見や日帰り旅行を行っている。家族との外出・外泊も自由にして頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金はお持ち頂かないことにしている。お金を自己管理できる方の中には、おこずかい程度を管理している方もいる。おこずかいが必要な時にはホームにて立て替えている。ホームの買物時や散歩時などには希望に応じて使っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご家族やご友人に電話をしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中は、音楽を流したり、リビングに温湿度計を設置して、快適な温度と湿度が保てるようにしている。また、月毎の手作りでカレンダーを作ったり、季節の飾り付けを行い、季節感ができるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングの席は基本的にご利用者それぞれの場所を決めて、いつでも利用して頂けるようにしている。また、リビングのテレビ前にソファを設置したり、和室の掘りごたつに座り、共用部分でもゆっくりと過ごせる場を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自由に使い慣れた物を持ってきて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の部屋などは分かりやすいように大きな文字で掲示している。また、危険箇所がないように定期的に安全巡視を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

相模原ケアガーデン
グループホームあじさい

作成日

平成23年1月30日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	24	認知症アセスメントのセンター方式による生活暦や馴染みの暮らし等についての把握が不十分な所がある。	今まで以上に本人の生活暦や馴染みの暮らし等について、知る事ができるようになる。	本社主体のセンター方式の研修を実施して、各スタッフが認知症アセスメントのセンター方式を学習することにより、本人の事を深く知る事ができる。	6ヶ月
2	14	他のグループホームなどとの交流を増やして、今まで以上に情報交換を行うことが必要である。	他のグループホームとの交流を増やして、情報交換並びに情報の共有化を図ることで、お互いに今まで以上に良いホームにする。	他のグループホームとの人材交流やお互いのホームへの研修を行い、情報交換や情報の共有化を図る。	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。